

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年3月5日

事業所名 平谷こども発達クリニック ICT支援室

|                     |    | チェック項目   | はい | どちらとも<br>いえない | いいえ | 工夫している点  | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標                           |
|---------------------|----|--|----|---------------|-----|--|--|
| 環境<br>・<br>体制<br>整備 | 1  | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である                                  | ○  |               |     | コロナ対策で個別ブースを作成                                   | 満席だと少し狭いが、移動のない活動なのでやむを得ない。                            |
|                     | 2  | 職員の配置数は適切である   | ○  |               |     | 有資格指導員一人に対して3人を切る配置                              |  |
|                     | 3  | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている                           | ○  |               |     | トイレが広くてきれい                                       |  |
| 業務<br>改善            | 4  | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している                |    | ○             |     | 曜日スタッフが毎日の打ち合わせを行っている                            | いろいろと変更が多く、すべての職員に行き届かないことがあったので、周知徹底できるよう確認の仕方を工夫したい。 |
|                     | 5  | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている     | ○  |               |     | アンケート調査を行い、改善点を話し合う。                             |  |
|                     | 6  | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している                           |    | ○             |     | する予定   |  |
|                     | 7  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている                             |    | ○             |     | 教育委員会の先生や大学の先生のアドバイスを受けながら進めている。                 |  |
|                     | 8  | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している                                | ○  |               |     | 毎週金曜研修を行っている。                                    |  |
| 適切な<br>支援の<br>提供    | 9  | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○  |               |     | 担当者が丁寧に面談をして進めている。                               |  |
|                     | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している                 |    | ○             |     | クリニックのカルテ等でアセスメントツールの結果を利用している。                  |  |
|                     | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている                                       | ○  |               |     | メーリングリストを使って教材研究をしている。                           |  |
|                     | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している                                     | ○  |               |     | こどもに合わせて工夫している。                                  |  |
|                     | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している                         |    | ○             |     | パワポで当日やるべきことをまとめ、課題をきめ細かく設定している。                 |  |
|                     | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している            |    | ○             |     | 基本個別で行っているが、似たようなレベルの子どもたちには一緒に活動させることで意欲を高めている。 |  |
|                     | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している             | ○  |               |     | している。  |  |

|              |   |   |   |   |                      |  |
|--------------|---|---|---|---|----------------------|--|
|              | 16  | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している                   | ○ |   |                      | しているし、お互いアドバイスもしあっている。                                   |
|              | 17  | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている                               | ○ |   |                      | 毎日個別に記録をつけている。   |
|              | 18  | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している                             | ○ |   |                      |  |
|              | 19  | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている                                       |   | ○ |                      |  |
| 関係機関や保護者との連携 | 20  | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している                     | ○ |   |                      | 児童発達支援管理責任者だけでなく、その子どもの主たる指導者が参加している。                    |
|              | 21  | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている |   | ○ |                      | 特に送迎加算の子どもは、学校や児童クラブとも連絡調整をしているし、面談の時にも学校の様子等を意図的に聞いている。 |
|              | 22  | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている                             |   | ○ |                      | 現在は受け入れていない。   |
|              | 23  | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている                |   | ○ |                      | 一番小さい子供でも小学2年生のため、現在は行っていない。                             |
|              | 24  | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している     |   | ○ |                      | 現在は該当者がおらず、行ったことがない。                                     |
|              | 25  | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている                          | ○ |   |                      | 定期的ではないが、各方面の専門機関と連携している。                                |
|              | 26  | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある                                 |   | ○ |                      | 特に設定はしていない。  |
|              | 27  | （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している   |   | ○ |                      | 現在はまだその必要性を感じていない。                                       |
|              | 28  | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている                        | ○ |   |                      | 定期的な面談に加え、悩みごとの相談にもっている。                                 |
| 29           | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている |   | ○ |   | 現在はその必要性を感じる保護者がいない。 |  |

|            |    |  |   |   |  |   |
|------------|----|--|---|---|--|---|
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている   | ○ |   |  | 資料を用意して、丁寧に行っている。                                     |
|            | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている                                       | ○ |   |  | 特に教育分野での豊富な経験、技能、知識があるスタッフが担当して行っている。                 |
|            | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している                                   |   | ○ |  | 現在はその必要性を感じていない。                                      |
|            | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している             | ○ |   |  | スタッフへの直接の訴えやメールでの相談について、迅速かつ適切に対応してきた。                |
|            | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している                               |   | ○ |  | 個別の問い合わせ等については迅速に対応しているが、定期的な行事等はなく会報等を発行する予定はない。     |
|            | 35 | 個人情報に十分注意している  | ○ |   |  | きちんと管理できている。  |
|            | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている   | ○ |   |  | その人に応じた配慮を工夫している。1                                    |
| 非常時等の対応    | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている   |   | ○ |  | ある意味特殊な活動のため地域との交流は考えていない。                            |
|            | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している                                |   | ○ |  | 理事長が感染症も専門とするドクターであり、きめ細やかにマニュアル等を作成し職員や保護者にも徹底させている。 |
|            | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている   |   | ○ |  | 避難訓練を行っていないので、年に1度は職員のみと利用者を含めてた訓練を実施していきたい。          |
|            | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている   |   | ○ |  |   |
|            | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している |   | ○ |  |   |
|            | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている   |   | ○ |  |   |
|            | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している  |   | ○ |  |   |